

ミディトマトの低コスト隔離栽培技術

1 はじめに

全国に先駆けてブランド化された福井県のミディトマトは、近年排水不良や土壌病害等により品質や収量が低下しています。このため、土壌条件に左右されず、低コストで品質や収量が安定できる隔離栽培システムならびに栽培技術を開発しました。



写真1 培地部分 写真2 給液装置

2 低コストな隔離栽培システム

長い袋状の遮根シートでバーク堆肥を包んで培地とし、ミディトマトを栽培します（写真1）。

毎日の給液は、液肥混入機、タイマー、電磁弁を使って必要な液肥と水を施用することで、無駄な水を与えず、糖度の向上や裂果の軽減が可能になります（写真2）。

給液には、市販の点滴かん水チューブや点滴ドリッパーを使います（図1）。

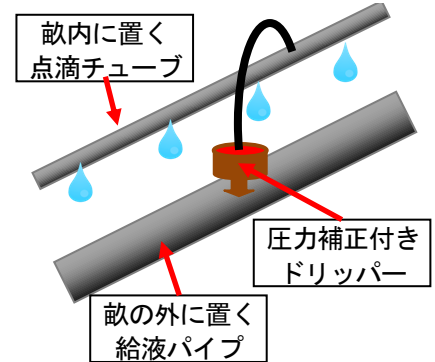


図1 給液ラインの概略図

3 給液管理のポイント

ミディトマトの栽培中の給液量は、ハウス、時期、生育段階等により変わります（表1）。この栽培システムでは、通常の土耕栽培と異なり、培地に基肥や土壌改良資材が入っていないので、液肥を毎日給液し、減らしすぎないことが大切です。

表1 半促成栽培における給液例（品種：華小町）

時期	3月中旬	4～5月	6～7月
生育段階	定植期	開花・生育期	収穫期
給液時間帯	8時～12時	7時～14時	6時～16時
1日1株 総給液量	100～ 500cc	500～ 1,500cc	1,000～ 1,800cc
施肥チツソ量	30～ 100mg/株	120～ 170mg/株	150～ 100mg/株
液肥濃度	1.5%	1.5～1.0%	1.0%

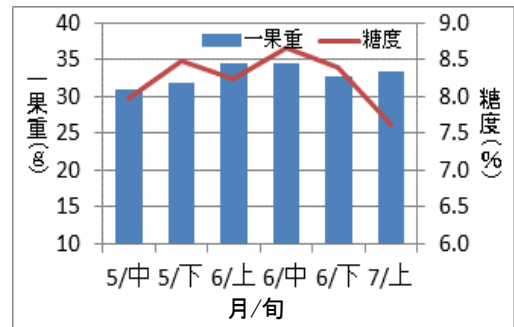


図2 一果重と果実糖度の推移

4 技術の効果およびコスト

このシステムは、10アール当り約150万円で導入でき、市販のドレンベッドに比べて、コストが約40%削減できます。また、接ぎ木苗が不要となり、苗代が安くなります（約3万円/10aコスト減）。さらに、青枯れ病等の被害がなく、糖度の向上や裂果の軽減に効果的です。安定して糖度7.5%以上のミディトマトが、10アールあたり半促成作で約3.5トン収穫できます。

（農試 園芸部 畑中康孝）